

Together



院長交代
対談動画はこちら



Q1

今回の院長交代を振り返っていただけますか？（林 前院長）

林：今回の院長交代は、単なる役職の入れ替わりではなく、“次の時代にふさわしい新しい病院をつくるための世代交代”だと考えています。私は常に5年、10年先を見据えて病院づくりをしてきましたが、この十数年で社会の価値観も医療環境も大きく変わり、新しい技術や仕組みが次々と生まれています。そこで、「このタイミングで託すのが一番良い」と判断し、交代を決めました。若返りという意味でも、病院にとって大きなチャンスだと思っています。

Q2

院長として特に印象に残っている出来事は？（林 前院長）

林：振り返ると、特に印象に残っている取り組みが三つあります。一つは 病院機能評価の取得。当時、回復期病院では珍しい挑戦でしたが、職員全員で力を合わせて達成できました。二つ目は 地域に目を広げるリハビリ病院を目指したこと。“院内だけで完結しないリハビリ”という視点を、皆で共有できたのは大きな前進でした。三つ目は コロナ禍でのクラスター発生時の一致団結です。大変な状況でしたが、あれほど職員が一つになった経験はありません。「この病院の力は人である」と改めて感じた出来事でした。

Q3

新しい院長に期待することは？（林 前院長）

林：私自身が強く感じているのは、“新しい形のリハビリ病院”をつくってほしいという期待です。そして何よりも、病院の理念である「地域に寄り添い、地域とともに」。これは絶対に揺るがせない思いですし、小川先生には、この理念をさらに発展させながら、病院を次の時代へ導いてくれると信じています。

Q4

院長就任にあたっての率直な感想は？（小川 新院長）

小川：最初は、本当に自分が院長で良いのかという不安がありました。私は15年前に頸椎損傷を負い、移動一つ、自分ひとりではできない場面が多あります。その中で院長が務まるのか、とても悩みました。ですが、周囲から「障害者こそ前面に出るべきだ。その姿が社会に貢献することになる」と言われ、覚悟が決まりました。迷惑をかける場面があるかもしれませんが、この状況だからこそできることがあるはずだと思い、院長をお引き受けしました。

院長交代

前院長×新院長が語る

継承と未来

林前院長が築いた礎を、小川新院長が次の時代へつなぐ。



下関リハビリテーション病院
林 研二 前院長

下関リハビリテーション病院
小川 浩一 新院長

Q5

どのような“バトン”を受け取ったと感じていますか？（小川 新院長）

小川：林先生から受け取った一番大きなバトンは、やはり「地域に寄り添い、地域とともに」という理念です。患者さんがどこから来ても嬉しいですが、最終的にはこの下関地域の方々を幸せにし、地域に必要とされ続ける病院でなければいけません。林先生が長年積み重ねてきたこの理念を私の代でさらに発展させていくことが使命だと感じています。

Q6

今後の病院運営で特に注力したい点は？（小川 新院長）

小川：私は、「職員が輝き、患者さんが主役になる病院」をつくりたいと思っています。院長が輝くのではなく、職員一人ひとりが輝ける環境をつくる。そして患者さんがその中心にいて、リハビリを通じて人生を取り戻す場を提供する。その積み重ねが、“地域の希望の拠点”につながっていくと考えています。

Q7

お二人が共有している価値観は？

林：やはり 地域に寄り添うこと、これに尽きます。
小川：私も同じ思いです。地域の皆さんが困ったときに「下関リハに行こう」と思えるような病院でありたい。そのために、職員とともにより良い病院づくりを進めていきます。

Q8

最後に、地域の皆さまへメッセージをお願いします。

林：これからも職員一同、切磋琢磨しながら“地域に寄り添い、地域とともに”歩んでいきます。今後ともよろしくお願いいたします。
小川：下関リハビリテーション病院は、治療の場を超えて、地域のセーフティーネットであり続けたいと考えています。困ったときに思い出していただける、そんな病院でありたい。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。